

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）ワクチンの接種を希望される方へ

～定期接種対象年齢以外の方（任意接種）用

釧路赤十字病院

日本では過去に麻しん・風しん・おたふくかぜ混合のワクチン接種を行っていましたが、おたふくかぜワクチンの副反応である髄膜炎の発生頻度が問題とされ、現在のところ子供の定期接種には含まれていません。麻しん・風しん・おたふくかぜワクチン接種後の無菌性髄膜炎発症は0.08%程度、おたふくかぜワクチン単体接種後の無菌性髄膜炎発症は0.03～0.06%とされ、決して低い率とは言えませんが、自然感染により発症する髄膜炎の発生率（1.24%）と比較すれば、ワクチンによりおたふくかぜを予防したほうが、髄膜炎に対するリスクは低いと考えられます。またワクチンをうけたくてもうけることのできない妊婦さんや免疫不全の患者さん等に感染を広げないという効果もあります。

ワクチンに関しては、母子手帳による確認が正確ですが、手元にない方等もいらっしゃいます。そこで当院では以下の内容を確認の上、ワクチンをうけるかをご本人に決めて頂いております。

※他ワクチンを同時にうけることも医師が特に必要とみとめた場合は可能とされていますが、当院は現在成人では実施していません。

【ワクチンをうけるかどうかの選択方法】

1. 母子手帳を手元にお持ちの方

1) おたふくかぜワクチンを2回うけた記録が残っている

→ワクチンをうける必要はありません

（なお、ワクチンを2回うけても免疫ができない方や低下してしまう方もいます。

ご心配な方は抗体の値を測定することもできます。

※1種類の抗体を調べるには4,020円（税別）の自己負担が発生します。

2) おたふくかぜワクチンを1回うけた記録が残っている

→ワクチンを1回うけることをお勧めします

2. 母子手帳を手元にお持ちでない方

1) 抗体の値を測定する

(※1種類の抗体を調べるには4,020円(税別)の自己負担が発生します。

結果がでるまでには1週間程度時間がかかるため、受診が複数回必要です。)

→①低い値であれば、ワクチンをうける

②高い値であれば、ワクチンをうける必要はありません

2) 抗体の値を測定しないでワクチンを2回うける

(※抗体の値を測定するには、自己負担が発生し、また結果が出るまで時間がかかります。渡航予定等にてお急ぎの方は抗体の値を測定しないでワクチンをうけることも可能です。日本ワクチン産業協会から出版されている予防接種に関するQ&Aには「抗体が陽性の成人にワクチンを接種しても特に問題がない」ことが明記されています)

抗体の値を確認して決定することが推奨されますが、必要性が高い場合はその限りではないとされています。しかし、少ないとされていますが、ワクチンによる副反応は全くない訳ではありません。下記の内容を理解した上でご判断下さい。

【ワクチンをうける際の留意事項】

1. ワクチンをうけることができない人

- 1) 妊娠をしている女性および妊娠している可能性がある女性はおたふくかぜワクチンをうけることができません。おたふくかぜワクチンをうけた後は少なくとも 2 カ月の避妊が必要です。万が一、ワクチンをうけた後に妊娠がわかった場合は、かかりつけの産婦人科の先生にご相談ください。
- 2) ワクチンをうける 3 カ月以内にガンマグロブリン（血液製剤の一種で、重症の感染症の治療などに使われます）の注射あるいは輸血をうけたことがある人は、免疫が十分にできませんのでワクチンをうけることを延期する必要があります。また、大量のガンマグロブリンの注射をうけたことがある人は、6 カ月程度延期する必要があります。
- 3) 生ワクチン（麻しん風しん混合、麻しん、風しん、BCG、水ぼうそう、おたふくかぜ、黄熱ワクチンなど）の後は中 27 日以上、不活化ワクチン（ヒブ、小児用肺炎球菌、インフルエンザ、四種混合（百日咳・ジフテリア・破傷風・不活化ポリオ）、三種混合（百日咳、ジフテリア、破傷風）、二種混合（ジフテリア、破傷風）、不活化ポリオ、日本脳炎、A 型肝炎、B 型肝炎、狂犬病、成人用肺炎球菌ワクチンなど）の後は中 6 日以上、間隔をあける必要があります。

おたふくかぜワクチンに限ったものではありませんが、

- 4) 接種直前の体温が 37.5℃以上であった人
- 5) 重い急性の病気にかかっている人
- 6) おたふくかぜワクチンに含まれる成分（接種医におたずねください）でアナフィラキシーという重いアレルギー反応を起こしたことがある人
- 7) 接種医がうけない方が良くないと判断した場合には、ワクチンをうけることができません。

2. ワクチンをうけるときに注意が必要な人（ワクチンをうけるには、かかりつけの先生と相談する必要があります）

- 1) 先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、血液、脳神経、発育発達の病気、悪性腫瘍など何らかの病気がある人
- 2) これまでの予防接種で 2 日以内に発熱がみられた人、またはアレルギーを疑う症状（全身の発疹やじんましんなど）がみられた人
- 3) これまでにけいれんを起こしたことがある人
- 4) これまでに免疫機能に異常（感染症によくかかったり、感染症が重くなったりすることがあります）があると言われたことがある人
- 5) おたふくかぜワクチンに含まれる成分（接種医におたずねください）でアレルギーを起こすおそれのある人

- 6) 薬や食べ物でアレルギーを疑う症状（全身の発疹やじんましんなど）がみられた人
- 7) 接種当日の体調が普段とちがう人
- 8) 家族や周りで最近1ヵ月以内に麻しん、風しん、水ぼうそう、おたふくかぜにかかった人がいる場合
- 9) 最近1ヵ月以内に何か病気にかかった人

3. おたふくかぜワクチンの効果

おたふくかぜワクチンを1回うけることによって90%以上の人が免疫を獲得します。しかしWHOはおたふくかぜワクチンの予防効果は1回では十分ではないとして、2回うけることを推奨しています。

4. おたふくかぜワクチンの副反応

おたふくかぜワクチンに由来すると考えられる無菌性髄膜炎は、0.03~0.06%の頻度で発生するとの報告があります。また、稀に難聴、精巣炎の報告があります。発熱、耳下腺の腫れ等を認めることもあります。通常は軽度で数日で軽快します。また接種部位の発赤、腫れを認めることもあります。これも数日で軽快します。

おたふくかぜワクチンに限ったことではなく、ワクチン全般で言われることですが、稀にワクチンをうけた後30分以内にアナフィラキシーという重いアレルギー反応や、血管迷走神経反射による顔色不良、気分不良、血圧低下や失神を認める方がいますので、ワクチンをうけた後は少なくとも30分間、ワクチンをうけた医療機関などで背もたれのある椅子に座って様子を観察しましょう。

5. その他注意すること

※予診票はこれまでの様子を知るための重要な情報ですので、正しく記入しましょう。

※ワクチンをうけた当日は入浴可能ですが、接種部位を清潔に保ち、はげしい運動をひかえ、体調をよく観察しましょう。もし、何か気になる症状がみられた場合は接種医に相談しましょう。

H30年6月作成